

令和3〔2021〕年

広島県観光客数の動向

令和4年7月

一般社団法人広島県観光連盟

目 次

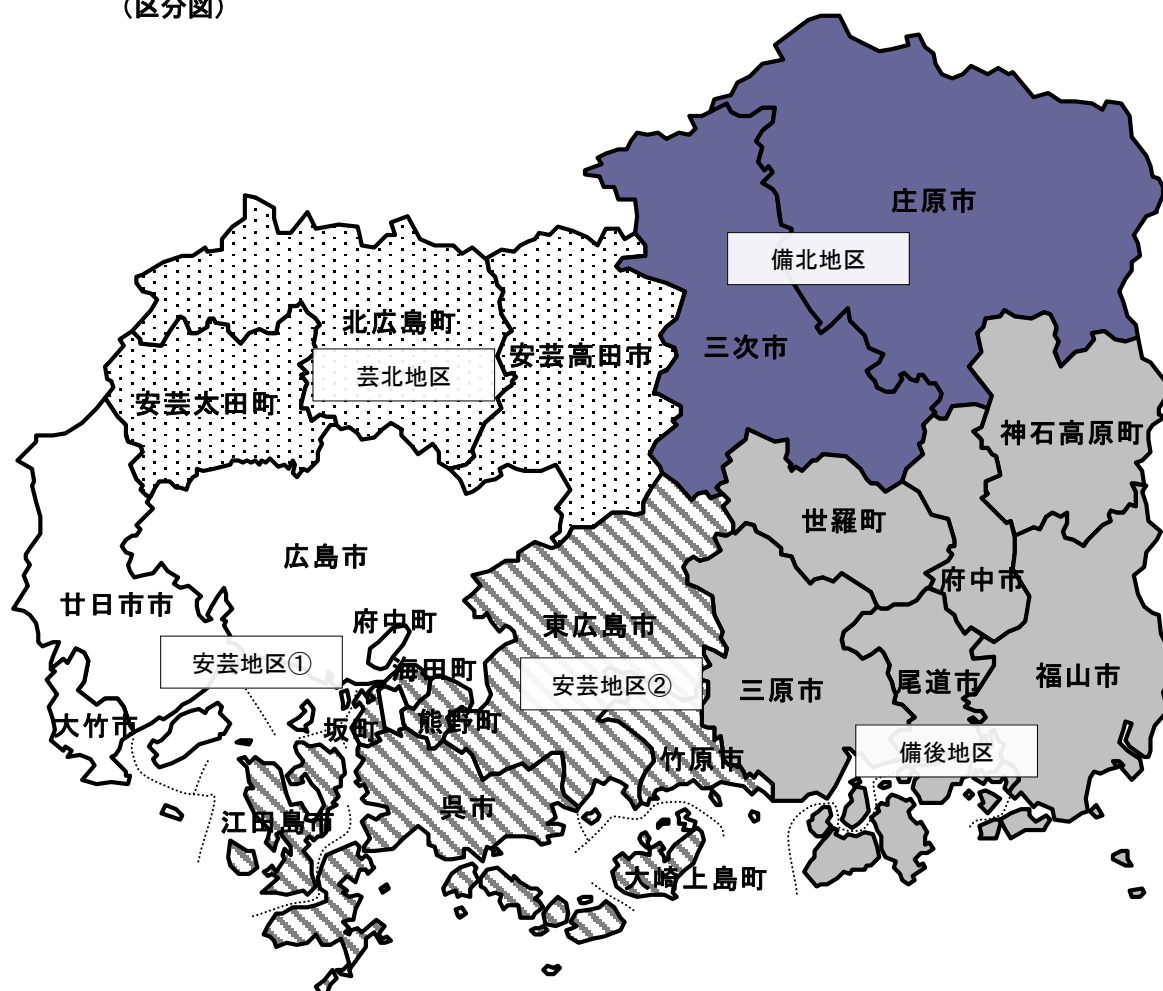
I	調査の概要	1
II	調査結果の概要	2
1	観光客数の状況	2
(1)	総観光客数の概況	2
(2)	地区別観光客数の状況	3
(3)	発地別観光客数の状況	6
(4)	目的別観光客数の状況	12
(5)	旅行形態別観光客数の状況	13
(6)	交通機関別観光客数の状況	15
(7)	月別観光客数の状況	16
2	外国人観光客数の状況	17
(1)	外国人観光客数の概況	17
(2)	市場別外国人観光客数の状況	18
3	宿泊客数の状況	20
(1)	宿泊客数の概況	20
(2)	地区別宿泊客数の状況	20
(3)	月別宿泊客数の状況	22
4	観光消費額の状況	23
III	観光客数統計表	24
	第1表 総観光客数の推移	
	第2表 令和3年発地別観光客数と観光消費額	
	第3表 令和3年目的別観光客数	
	第4表 令和3年旅行形態別・交通機関別観光客数	
	第5表 令和3年月別観光客数	
	第6表 令和3年県内主要・有料観光施設の月別利用状況	
	第7表 令和3年市場別外国人観光客数	
	第8表 令和3年月別宿泊客数	

I 調査の概要

この調査は、本県の観光客数、観光消費額等の実態を把握し、観光振興施策の立案、実施に当たっての基礎資料とすることを目的として、市町の協力を得て毎年実施しており、市町ごとに観光客数、発地、目的、形態、利用交通機関、外国人観光客数、宿泊客数、観光消費額等について調査したものである。

- 1 この調査は、各市町が令和3年1月から12月までの1年間（暦年）の当該市町の観光客数等を推計し、一般社団法人広島県観光連盟で取りまとめたものである。
- 2 各市町の観光客数及び宿泊客数は、延べ人数である。
- 3 掲載した図・表の数値については、単位未満の端数処理を行っているため、観光客数統計表の数値と一致しない場合がある。また、観光客数統計表の数値についても同様であり、表内の項目計や表間で一致しない場合がある。
- 4 観光客数の状況等を地区別にみるため、下記の5地区に区分して整理している。
- 5 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、推計の根拠となる基礎調査におけるサンプルが規定数に達していない中での推計であるため、数値については、項目により欠測となっている場合があるほか、誤差が大きくなっている可能性がある。

(区分図)



Ⅱ 調査結果の概要

1 観光客数の状況

(1) 総観光客数の概況

① 令和3年の総観光客数

令和3年の総観光客数は3,966万人で、令和2年と比較して241万人（▲5.7%）減少した。令和3年は前年に続き、新型コロナウイルス感染症の流行が大きく影響した。新規感染者数が減少した一部期間については、県や市町等による観光キャンペーンの効果もあり、前年を上回る状況となった時期がみられたものの、長期間にわたる移動自粛制限等の発令により県内各地で観光施設の休業やイベントの中止が相次いだほか、年間を通じて外出自粛の動きがみられたことなどにより、前年から微減となった。なお、感染症拡大前の令和元（平成31）年と比較すると、2,753万人（▲41.0%）の減少となった。

図表1-1 総観光客数の比較

(単位：万人)

区分	平成31 (令和元)年	令和2年	令和3年	増減数 R3-R2	増減率 R3/R2	増減数 R3-R元(H31)	増減率 R3/R元(H31)
総観光客数	6,719	4,207	3,966	▲241	▲5.7%	▲2,753	▲41.0%

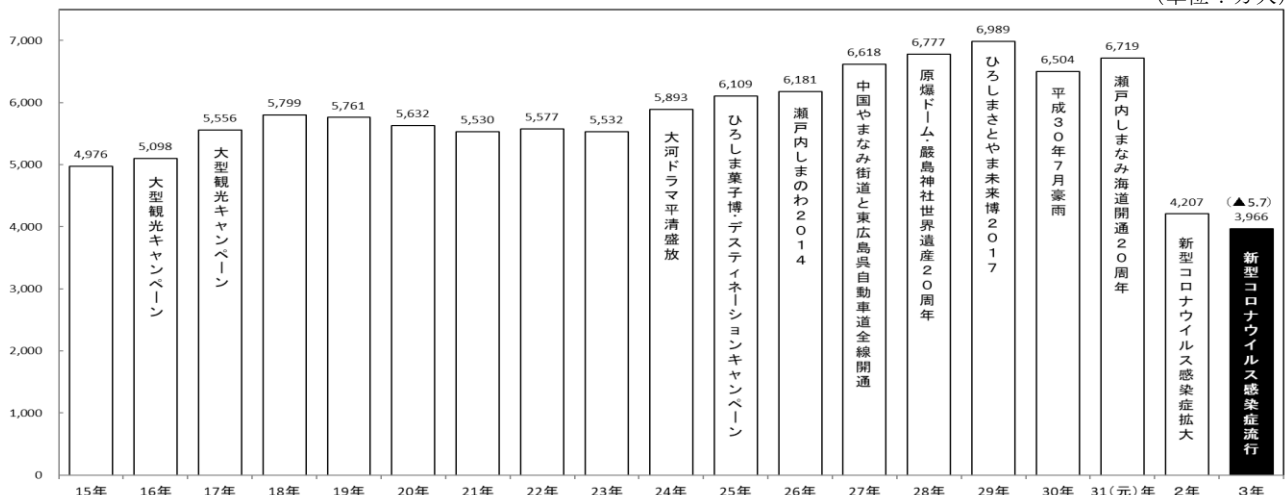
② 総観光客数の推移

本県の総観光客数は、平成25年に初めて6,000万人を突破した後、平成29年まで6年連続で過去最高を更新しており、順調に推移していたが、平成30年は西日本豪雨災害等の影響により前年を6.9%下回ることとなった。

平成31（令和元）年は回復に転じたものの、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大による影響を受けた令和2年以降は大幅に減少し、令和3年は平成3年（3,964万人）以来の低水準となった。

図表1-2 総観光客数の推移

(単位：万人)



区分	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年
総観光客数	4,976	5,098	5,556	5,799	5,761	5,632	5,530	5,577	5,532
対前年増減率	▲1.7%	2.5%	9.0%	4.4%	▲0.7%	▲2.2%	▲1.8%	0.8%	▲0.8%

区分	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	31(元)年	2年	3年
総観光客数	5,893	6,109	6,181	6,618	6,777	6,989	6,504	6,719	4,207	3,966
対前年増減率	6.5%	3.7%	1.2%	7.1%	2.4%	3.1%	▲6.9%	3.3%	▲37.4%	▲5.7%

(2) 地区別観光客数の状況

① 市町別観光客数の状況

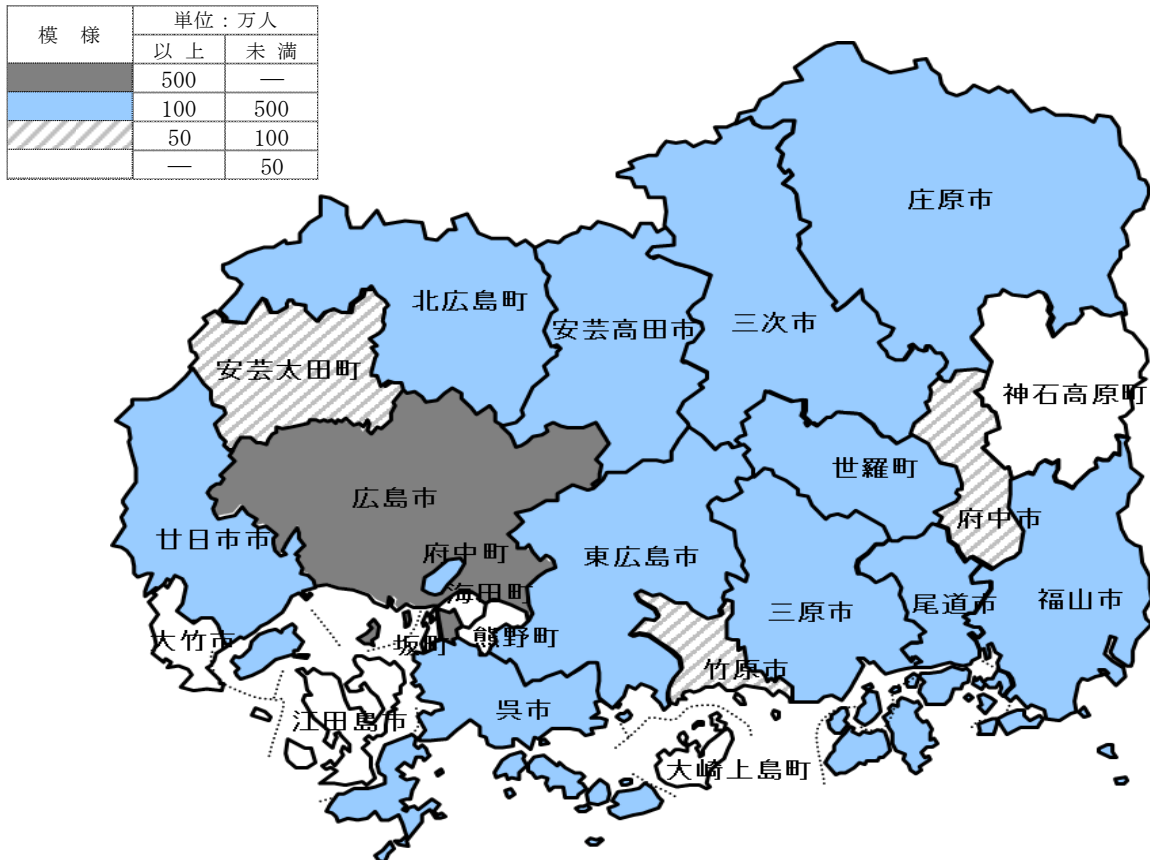
市町別にみると、総観光客数が500万人以上の市町は広島市のみであり、100～500万人未満の市町が最も多く、県内広範囲を占めた。

前年と比較すると、総観光客数が増加した市町は7市町で、都市近郊に多くみられた。一方、減少したのは16市町となり、多くの市町で減少した。

図表 1-3 市町別観光客数の増減一覧

総観光客数	市町数	前年と比べて	
		増加した市町	減少した市町
500 万人以上	1 市		広島市
100～500 万人未満	12 市町	三原市, 世羅町, 府中町	尾道市, 福山市, 廿日市市 安芸高田市, 三次市 東広島市, 庄原市, 北広島町 呉市
50～100 万人未満	3 市町	安芸太田町	府中市, 竹原市
50 万人未満	7 市町	江田島市, 坂町, 熊野町	神石高原町, 大竹市, 海田町 大崎上島町

図表 1-4 市町別観光客数の状況



② 市町別観光客数の順位（上位 10 位）

観光客数を市町別にみると、上位 10 位となった市町に大きな変動はないが、7 位の世羅町については前年から 19 万人（+10.4%）増加し、順位が上昇した。

また、感染症拡大前の平成 31（令和元）年と比較すると、広島市は 722 万人（▲44.5%）の減少、尾道市は 221 万人（▲32.4%）の減少となるなど、特に上位市町において減少幅が大きくなっている。

図表 1-5 市町別観光客数の順位（令和 3 年上位 10 市町）

（単位：万人，%）

順位	市町名	平成 31 (令和元)年	令和 2 年	令和 3 年	増減数 R3-R2	増減率 R3/R2	増減数 R3-R元(H31)	増減率 R3/R元(H31)	R2 順位
1 位	広島市	1,621	970	899	▲71	▲7.3	▲722	▲44.5	1 位
2 位	尾道市	683	470	462	▲9	▲1.9	▲221	▲32.4	2 位
3 位	福山市	630	379	354	▲25	▲6.6	▲276	▲43.8	3 位
4 位	廿日市市	791	367	329	▲39	▲10.5	▲462	▲58.4	4 位
5 位	三原市	416	272	272	+1	+0.2	▲144	▲34.6	5 位
6 位	安芸高田市	177	226	213	▲12	▲5.5	+36	▲20.4	6 位
7 位	世羅町	229	179	197	+19	+10.4	▲32	▲14.0	9 位
8 位	三次市	348	207	188	▲20	▲9.6	▲160	▲46.0	7 位
9 位	東広島市	281	196	175	▲20	▲10.5	▲106	▲37.7	8 位
10 位	庄原市	256	173	167	▲6	▲3.2	▲89	▲34.7	10 位

対前年増減率についてみると、県全体の減少率は▲5.7%であったが、それより減少率が小さい市町（増加した市町を含む）は 11 市町、県全体よりも減少率が大きい市町は 12 市町となった。

県全体の平均よりも減少率が小さい市町は、熊野町（+63.4%）、江田島市（+25.7%）や府中町（+17.9%）など、都市部周辺に位置する市町が多い。

一方、広島市（▲7.3%）、福山市（▲6.6%）や呉市（▲21.4%）については、県全体の平均よりも減少率が大きく、都市部を目的地とする旅行は低調な傾向にあった。

図表 1-6 市町別観光客数の対前年増減率一覧

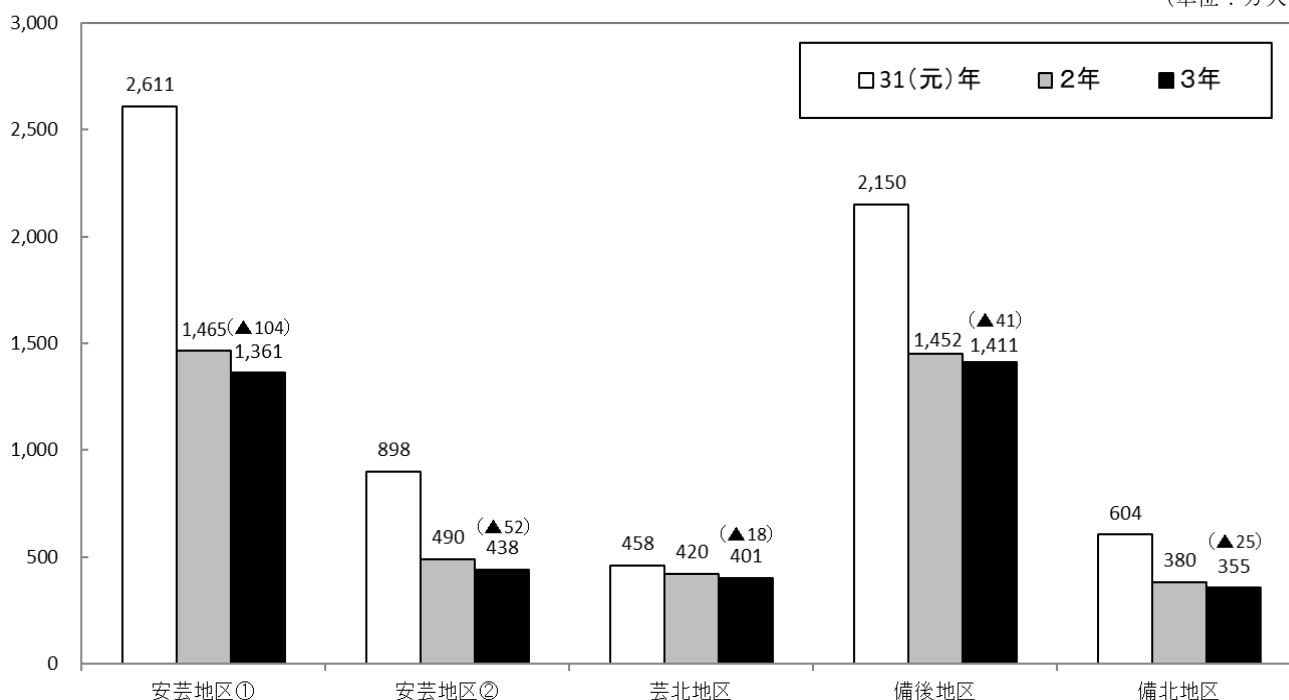
区分	市町数	市町名	対前年増減率
県全体の平均よりも 減少率が小さい市町	11 市町	熊 野 町	+63.4%
		江 田 島 市	+25.7%
		府 中 町	+17.9%
		世 羅 町	+10.4%
		安 芸 太 田 町	+6.4%
		坂 町	+5.1%
		三 原 市	+0.2%
		尾 道 市	▲1.9%
		庄 原 市	▲3.2%
		府 中 市	▲4.1%
		安 芸 高 田 市	▲5.5%
県全体の平均よりも 減少率が大きい市町	12 市町	北 広 島 町	▲6.0%
		福 山 市	▲6.6%
		広 島 市	▲7.3%
		竹 原 市	▲7.8%
		三 次 市	▲9.6%
		東 広 島 市	▲10.5%
		廿 日 市 市	▲10.5%
		大 崎 上 島 町	▲16.1%
		海 田 町	▲18.7%
		呉 市	▲21.4%
		大 竹 市	▲25.9%
神 石 高 原 町	▲35.4%		
(参考) 県全体の平均			▲5.7%

③ 地区別観光客数の状況

地区別では、前年と比べ、安芸地区②が▲10.6%（▲52万人）で最も減少率が大きく、次いで安芸地区①が▲7.1%（104万人）となった。一方、備後地区は▲2.9%（▲41万人）で、比較的減少率が小さい。なお、感染症拡大前の平成31（令和元）年と比較すると、総観光客数の多かった安芸地区①や備後地区において減少幅が大きい。

図表 1-7 地区別観光客数の推移

（単位：万人）



(3) 発地別観光客数の状況

① 県内・県外別観光客数の状況

県内観光客（地元観光客を含む）数は、前年と比較して53万人減の2,309万人（▲2.2%）、県外観光客数は188万人減の1,657万人（▲10.2%）であった。県内客、県外客ともに減少しているが、とくに県外客の減少が大きい。また、構成比で見ると、県内観光客は前年と比較して2.0%増加している。

なお、感染症拡大前の平成31（令和元）年と比較すると、県外観光客数は半減（▲50.0%）しており、県内観光客（地元観光客を含む）数の減少率（▲32.1%）を大きく上回った。感染症の流行により、本県においては近距離での旅行割合が増加している。

図表 1-8 県内・県外別観光客数の比較

(単位：万人)

区分	平成31(令和元)年 観光客数 (構成比)	令和2年 観光客数 (構成比)	令和3年 観光客数 (構成比)	増減数 R3-R2	増減率 R3/R2	増減数 R3-R元(H31)	増減率 R3/R元(H31)
県内	3,403 (50.6%)	2,362 (56.2%)	2,309 (58.2%)	▲53	▲2.2%	▲1,094	▲32.1%
県外	3,316 (49.4%)	1,845 (43.8%)	1,657 (41.8%)	▲188	▲10.2%	▲1,659	▲50.0%

なお、県全体の観光客のうち、市町内観光客及び市町外観光客の構成比は、前年からそれぞれ微増となった。令和3年の構成比は、市町外観光客が33.6%(+1.1%)、市町内(地元)観光客が24.6%(+0.9%)となっている。

また、感染症拡大前の平成31(令和元)年と構成比を比較すると、市町外観光客は6.0%増、市町内(地元)観光客は1.5%増、県外観光客は7.6%減となった。感染症流行下で、本県においては、近距離の旅行、とくに県内かつ市町外への旅行割合が増加した。

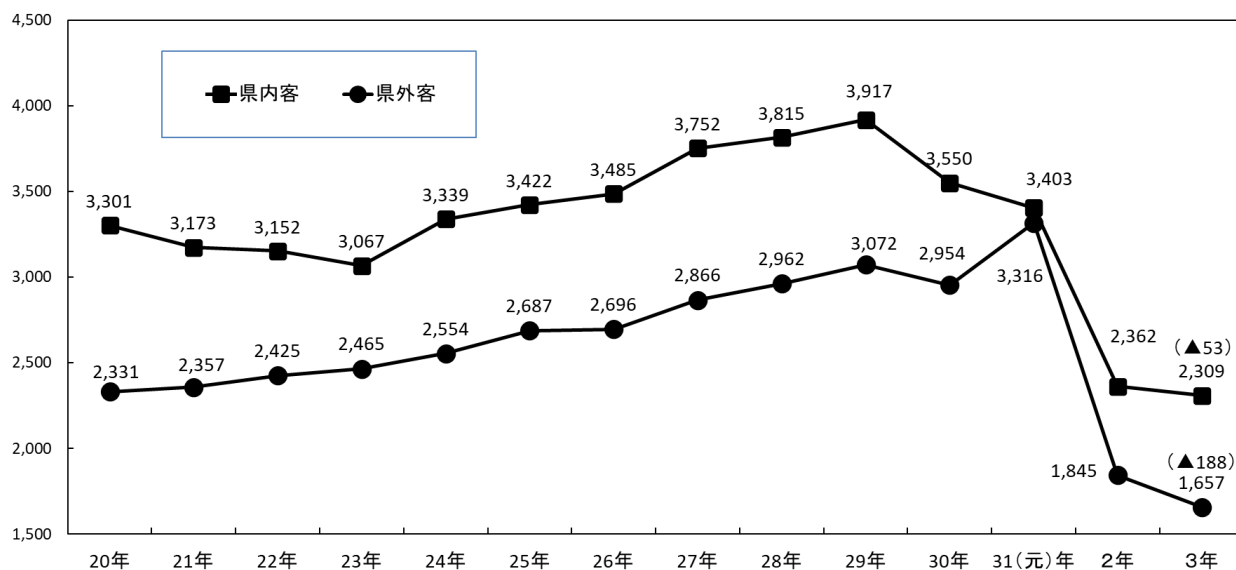
図表 1-9 市町内・市町外・県内外別観光客数の推移

(単位：万人)

区分	年次	県内観光客			県外観光客	総観光客数
		市町内(地元) 観光客	市町外観光客	計		
		(A)	(B)	(A)+(B)		
実績	20年	1,415	1,886	3,301	2,331	5,632
	21年	1,424	1,749	3,173	2,357	5,530
	22年	1,462	1,690	3,152	2,425	5,577
	23年	1,508	1,559	3,067	2,465	5,532
	24年	1,636	1,703	3,339	2,554	5,893
	25年	1,690	1,732	3,422	2,687	6,109
	26年	1,737	1,748	3,485	2,696	6,181
	27年	1,863	1,889	3,752	2,866	6,618
	28年	1,897	1,918	3,815	2,962	6,777
	29年	1,981	1,936	3,917	3,072	6,989
	30年	1,750	1,800	3,550	2,954	6,504
	31(元)年	1,549	1,854	3,403	3,316	6,719
	2年	996	1,367	2,362	1,845	4,207
3年	976	1,333	2,309	1,657	3,966	
構成比	20年	25.1%	33.5%	58.6%	41.4%	100.0%
	21年	25.8%	31.6%	57.4%	42.6%	100.0%
	22年	26.2%	30.3%	56.5%	43.5%	100.0%
	23年	27.3%	28.2%	55.4%	44.6%	100.0%
	24年	27.8%	28.9%	56.7%	43.3%	100.0%
	25年	27.7%	28.4%	56.0%	44.0%	100.0%
	26年	28.1%	28.3%	56.4%	43.6%	100.0%
	27年	28.2%	28.5%	56.7%	43.3%	100.0%
	28年	28.0%	28.3%	56.3%	43.7%	100.0%
	29年	28.3%	27.7%	56.0%	44.0%	100.0%
	30年	26.9%	27.7%	54.6%	45.4%	100.0%
	31(元)年	23.1%	27.6%	50.6%	49.4%	100.0%
	2年	23.7%	32.5%	56.2%	43.8%	100.0%
3年	24.6%	33.6%	58.2%	41.8%	100.0%	

図表1-10 県内・県外別観光客数の推移

(単位：万人)



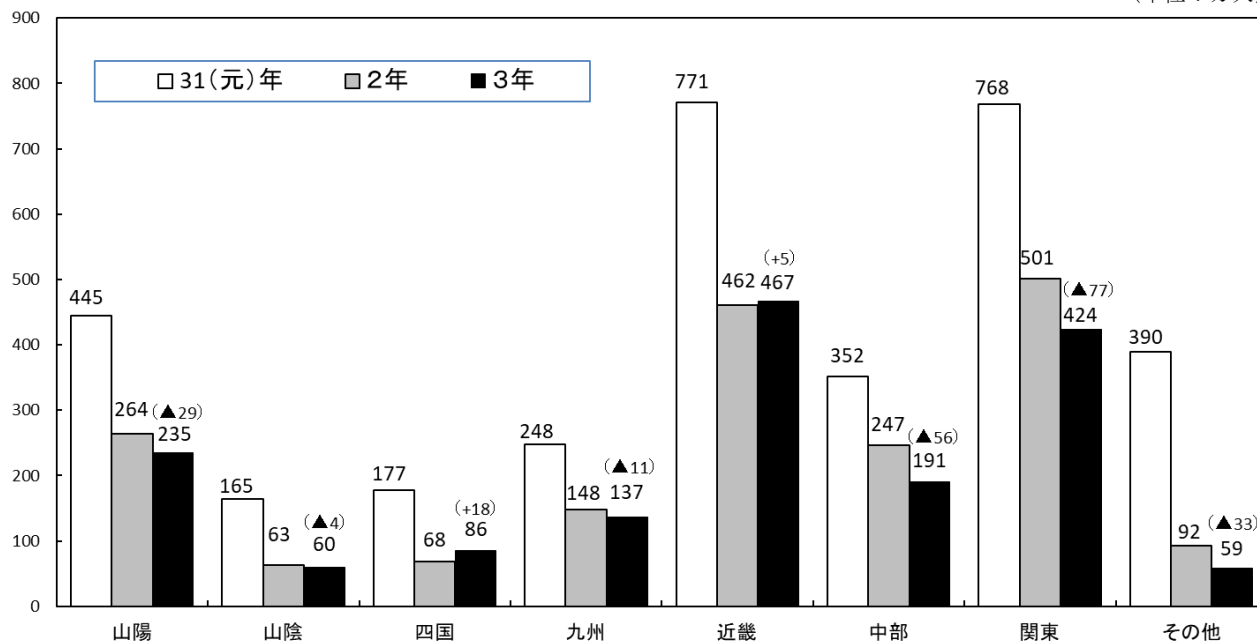
② 発地エリア別観光客数の状況

県外の発地エリア別観光客数は近畿地方が最も多く 467 万人となった。前年に最も多かった関東地方は、近畿地方に次ぐ 424 万人 (▲77 万人) となった。

なお、感染症拡大前の平成 31 (令和元) 年と比較すると、関東地方、近畿地方及びその他 (東日本等) で減少幅が大きく、とくに遠方からの観光客が減少している。

図表1-11 発地エリア別観光客数の推移

(単位：万人)



県外客の発地エリア別観光客数の割合は、最も観光客数の多い近畿地方が 28.2%，続いて関東地方が 25.6%であり、この 2 エリアの合計（53.8%）で半数以上を占めた。なお、近畿及び九州地方からの観光客は、平成 31（令和元）年以降、増加傾向にある。

図表 1-12 発地エリア別観光客数の割合

区分	近畿	関東	山陽	中部	九州	四国	山陰	その他
31（元）年	23.3%	23.2%	13.4%	10.6%	7.5%	5.3%	5.0%	11.7%
2年	25.0%	27.2%	14.3%	13.4%	8.0%	3.7%	3.4%	5.0%
3年	28.2%	25.6%	14.2%	11.5%	8.3%	5.2%	3.6%	3.6%

③ 地区別にみた発地エリア別観光客数の状況

県外の発地エリア別観光客数を地区別にみると、安芸地区②及び備後地区では近畿地方からの割合が最も高い。関西方面から鉄道等でアクセスしやすい県南部の地区において、割合が高くなっている。また、芸北地区及び備北地区においては、山陽地方からの割合が最も高い。

なお、船舶等でアクセスのしやすい安芸地区②においては、四国地方からの割合が比較的高いほか、大都市を有する安芸地区①及び備後地区については、関東地方からの割合も高かった。

図表 1-13 地区別・発地エリア別観光客数の割合

区分	山陽	山陰	四国	九州	近畿	中部	関東	その他
県全体	14.2%	3.6%	5.2%	8.3%	28.2%	11.5%	25.6%	3.6%
安芸地区①	7.2%	0.8%	2.5%	7.1%	30.0%	14.1%	33.8%	4.4%
安芸地区②	18.7%	2.4%	14.7%	11.3%	26.7%	7.8%	12.9%	5.5%
芸北地区	55.9%	14.1%	4.5%	15.5%	4.5%	1.5%	3.5%	0.5%
備後地区	16.0%	4.3%	7.1%	8.5%	30.0%	10.7%	21.0%	2.5%
備北地区	37.5%	28.4%	7.4%	7.2%	13.3%	1.4%	2.6%	2.2%

④ 市町別にみた県内・県外観光客数の状況

総観光客数の上位市町においては、県外客が多い傾向にあった。総観光客数上位 10 市町とも、県内客数に顕著な差はみられず、総観光客数が上位の市町をみると、県外客が全体を押し上げているところが多い。

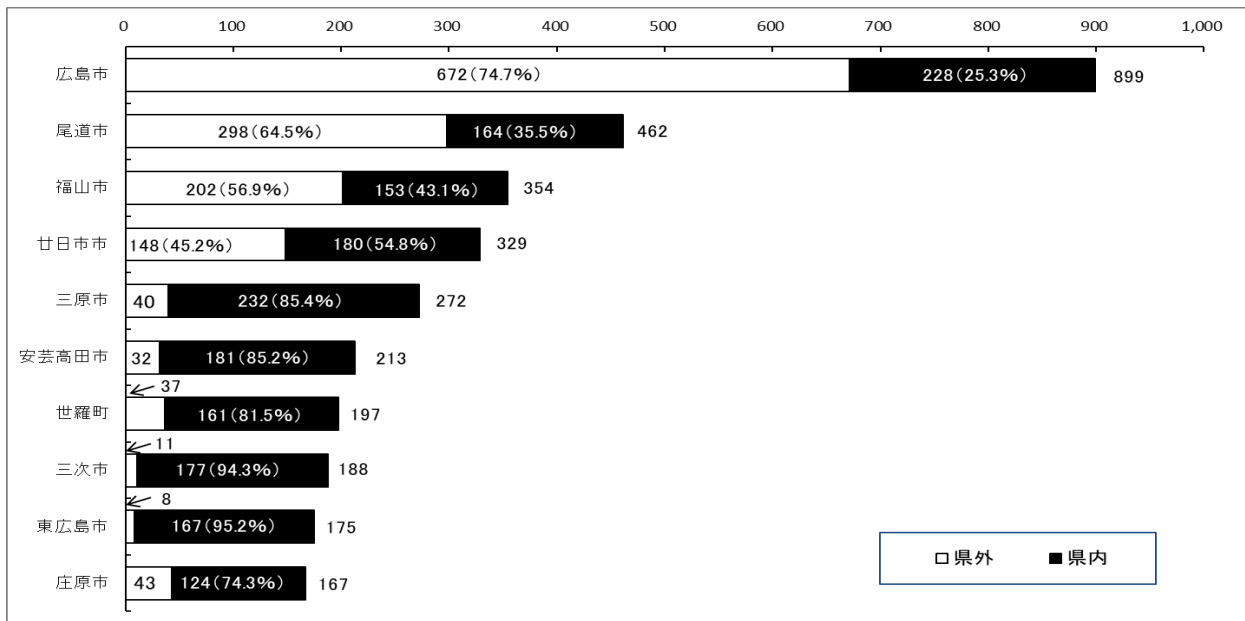
総観光客数の上位 10 市町をみると、県外客が最も多いのは広島市で 672 万人であった。広島市は、県外客が他市町と比較して著しく多く、県外客の割合も大きい。

また、総観光客数の上位 10 市町の中で、県外客の割合が、県全体の平均 41.8%を上回っているのは、広島市 (74.7%)、尾道市 (64.5%)、福山市 (56.9%)、廿日市市 (45.2%) の 4 市であった。

一方、総観光客数の上位 10 市町の中で、県内客の割合が最も大きいのは東広島市 (95.2%)、次いで三次市 (94.3%) であった。沿岸部の市町においては県外客の割合が大きく、県央及び県北に位置する市町においては県内客の割合が大きい傾向にある。

図表1-14 市町別・県内・県外別観光客数の状況(上位 10 市町)

(単位：万人)



⑤ 市町別にみた発地エリア別観光客数の状況

県外からの観光客数が多い上位5市は、全て沿岸部に位置する市となった。ビジネスによる来訪者が多い広島市については、関東地方からの割合が最も大きい。その他4市においては、近畿地方からの割合が最も大きい。

なお、関東地方からの観光客の割合はいずれの市も比較的高いが、呉市については、四国からの割合が高くなっている。高速道路等でアクセスのしやすい尾道市については、他市と比べ、山陰からの割合も比較的高かった。

図表1-15 市町別・発地エリア別観光客数の割合(県外客数上位5市)

区分	山陽	山陰	四国	九州	近畿	中部	関東	その他
広島市	4.3%	0.5%	2.4%	6.2%	30.0%	14.3%	37.6%	4.7%
尾道市	8.8%	2.6%	4.8%	7.0%	29.1%	14.8%	28.1%	4.7%
福山市	9.1%	2.1%	7.5%	12.6%	41.8%	8.8%	18.0%	0.0%
廿日市市	12.9%	1.9%	3.1%	11.7%	32.7%	14.5%	19.7%	3.5%
呉市	11.2%	0.3%	18.5%	14.2%	26.7%	9.1%	12.8%	7.3%

(4) 目的別観光客数の状況

目的別にみると、前年までに続き、「都市観光」の割合が最も大きい。そのうち「ショッピング、レストラン等」の割合については、感染症拡大前と比較して10%以上増加しており、年々増加傾向にあるが、「博物館、美術館等」については、前年は減少していたものの、令和3年は0.8%増加した。

屋外型施設や屋外での活動が中心となる「大規模公園、レクリエーション施設等」、「その他スポーツ」等は、感染症拡大前である平成31（令和元）年に比べ高い割合を保っている。

なお、県内の主要な祭りや花火大会等のイベントが多数中止となった影響により、「祭、行事」の割合については前年から1.5%減少しており、平成31（令和元）年と比較すると12.1%減少している。

図表1-16 目的別観光客数の割合(上位10項目)

区分	都市観光		大規模公園、レクリエーション施設等	その他スポーツ	神社、仏閣	自然探勝	温泉	祭、行事	ハイキング、登山、キャンプ	産業観光
	ショッピング、レストラン等	博物館、美術館等								
31（元）年	21.4%	18.3%	7.7%	6.3%	7.9%	5.0%	3.6%	15.7%	2.5%	2.2%
2年	33.3%	14.5%	9.6%	7.2%	5.5%	5.6%	3.8%	5.1%	2.5%	2.8%
3年	35.5%	15.3%	8.3%	7.1%	5.1%	5.1%	3.6%	3.6%	3.1%	2.4%

(注) 都市観光：都市を見たり、都市で学んだりすることを目的としたもの (博物館、美術館等)：美術館、博物館、動・植物園、水族館等 (ショッピング、レストラン等)：非日常の買い物や食事、映画鑑賞等

地区別に目的別観光客の割合をみると、すべての地区において「都市観光」の割合が最も高く、とくに安芸地区①では「博物館、美術館等」、芸北地区及び備後地区では「ショッピング、レストラン等」の割合が大きくなった。

「都市観光」以外では、安芸地区②及び備北地区の「大規模公園、レクリエーション施設等」、安芸地区②の「その他スポーツ」や「産業観光」、芸北地区及び備北地区の「自然探勝」等は県全体の平均を上回っており、各地区における観光プロダクトの特色が表れている。

図表1-17 地区別・目的別観光客数の割合(上位10項目)

区分	都市観光		大規模公園, レクリエーション施設等	その他スポーツ	神社, 仏閣	自然探勝	温泉	祭, 行事	ハイキング, 登山, キャンプ	産業観光
	ショッピング, レストラン等	博物館, 美術館等								
県全体	35.5%	15.3%	8.3%	7.1%	5.1%	5.1%	3.6%	3.6%	3.1%	2.4%
安芸地区①	25.2%	34.8%	9.3%	2.3%	8.4%	2.1%	2.4%	8.0%	3.6%	1.4%
安芸地区②	18.4%	14.4%	13.0%	18.6%	0.1%	4.0%	6.1%	2.0%	3.8%	9.9%
芸北地区	48.0%	0.7%	0.5%	10.0%	0.1%	7.7%	3.9%	2.0%	3.2%	1.4%
備後地区	47.9%	3.4%	5.0%	6.7%	5.9%	6.4%	3.1%	1.1%	1.1%	1.9%
備北地区	32.3%	5.4%	20.4%	8.9%	1.0%	9.0%	6.8%	0.4%	7.9%	0.1%

(5) 旅行形態別観光客数の状況

観光客を一般客, 団体客, 修学旅行者^(注)別にみると, 一般客は前年から209万人減少して3,587万人, 団体客は47万人減少して343万人となった。

修学旅行者については, 16万人増加して36万人であった。平成31(令和元)年までは毎年一定数を維持していたが, 令和2年以降については, 新型コロナウイルス感染症拡大による目的地変更, キャンセル及び延期等が影響し, 大きく減少している。令和3年は, 前年より延期となった旅行の催行などにより前年から増加したものの, 引き続き低調である。

構成比でみると, 県全体では一般客が約9割を占めている。エリア別にみると, 安芸地区では比較的団体客の構成比が高いほか, 安芸地区①については, 修学旅行者の構成比も高い。

なお, 推移でみると, 年々増加傾向にあった一般客は令和2年以降大幅に減少しているほか, 近年減少傾向であった団体客についても引き続き減少している。

図表1-18 地区別・旅行形態別観光客数及び構成比

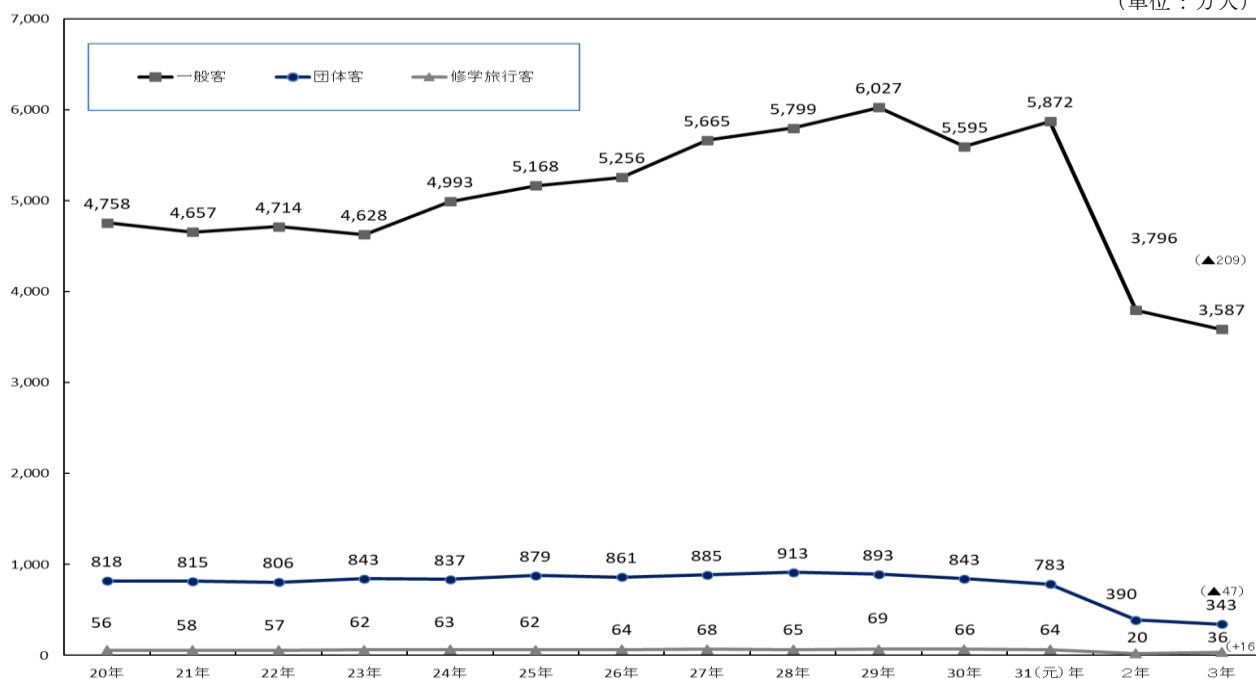
(単位：万人)

区分	一般客		団体客		修学旅行者	
	観光客数	構成比	観光客数	構成比	観光客数	構成比
広島県全体	3,587	90.5%	343	8.6%	36	0.9%
安芸地区①	1,183	86.9%	150	11.0%	28	2.1%
安芸地区②	386	88.1%	49	11.2%	3	0.7%
芸北地区	377	93.9%	24	6.0%	0	0.0%
備後地区	1,322	93.7%	84	6.0%	5	0.3%
備北地区	319	90.0%	35	9.9%	0	0.1%

(注) 一般客：団体客、修学旅行者以外の旅行者，団体客：10人以上の団体旅行者

図表1-19 旅行形態別観光客数の推移

(単位：万人)



(6) 交通機関別観光客数の状況

観光客の利用交通機関をみると、自家用車利用者が2,575万人と最も多く、観光客全体の64.9%を占めている。次いで、鉄道利用者が714万人、バス利用者が286万人、船舶利用者が248万人、航空機利用者が15万人であった。

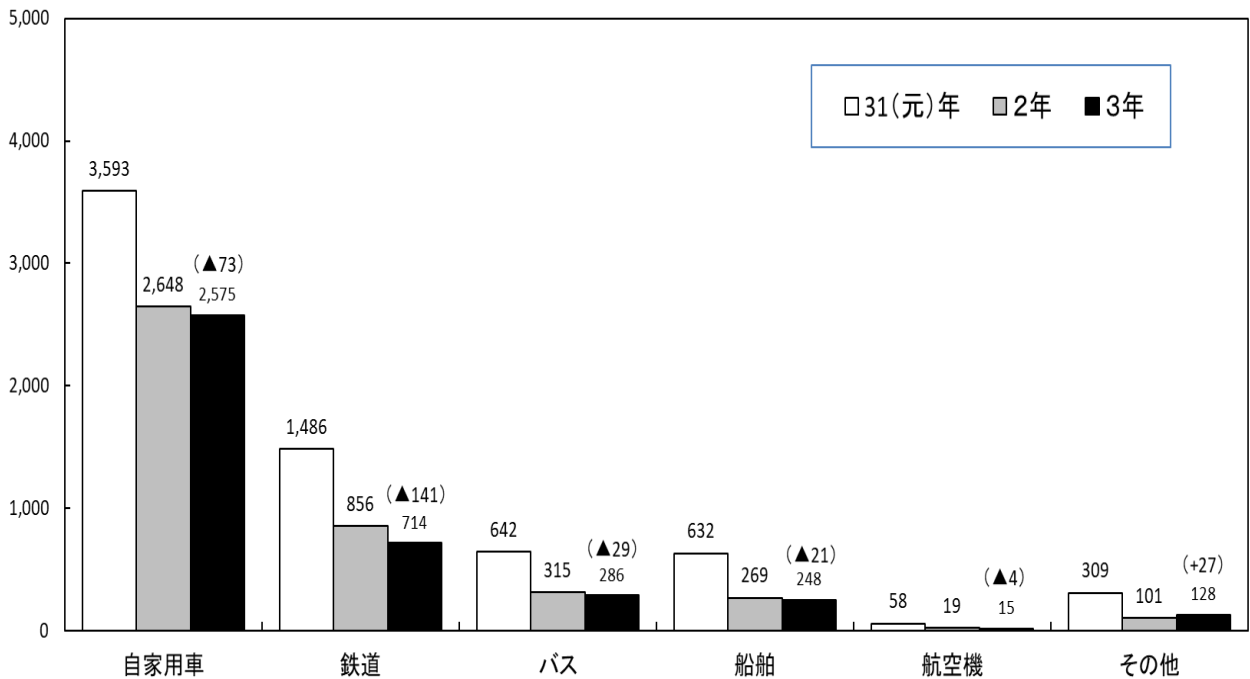
感染症対策を意識した交通手段の選択などが影響し、自家用車利用者の割合は前年から1.9%増加、感染症拡大前の平成31(令和元)年と比較すると11.4%の増加となっている。その他の交通機関の割合は、平成31(令和元)年と比べていずれも減少傾向にあり、自家用車による旅行が拡大している。

図表1-20 交通機関別観光客数の構成比

区分	自家用車	鉄道	バス	船舶	航空機	その他
31(元)年	53.5%	22.1%	9.6%	9.4%	0.9%	4.6%
2年	63.0%	20.3%	7.5%	6.4%	0.4%	2.4%
3年	64.9%	18.0%	7.2%	6.2%	0.4%	3.2%

図表1-21 交通機関別観光客数の推移

(単位：万人)



(7) 月別観光客数の状況

令和3年の月別観光客数は、1～2月については、感染症拡大前であった前年と比べて大きく減少した。年末年始の帰省及び初詣シーズンにおける外出自粛等の影響を受け、前年と比較して1月は45.7%減（244万人）、2月は36.5%減（267万人）となった。

3～5月上旬にかけては、感染症が拡大し始めた前年と比べて大きく増加した。新規感染者数が比較的落ち着いていたうえ、春休みやゴールデンウィーク等も相まって、前年と比較して3月は15.2%増（372万人）、4月は118.7%増（342万人）、5月は90.9%増（292万人）となった。

一方6月については、緊急事態宣言の発令により休業する観光施設もみられ、前年から18.7%減少して196万人となった。

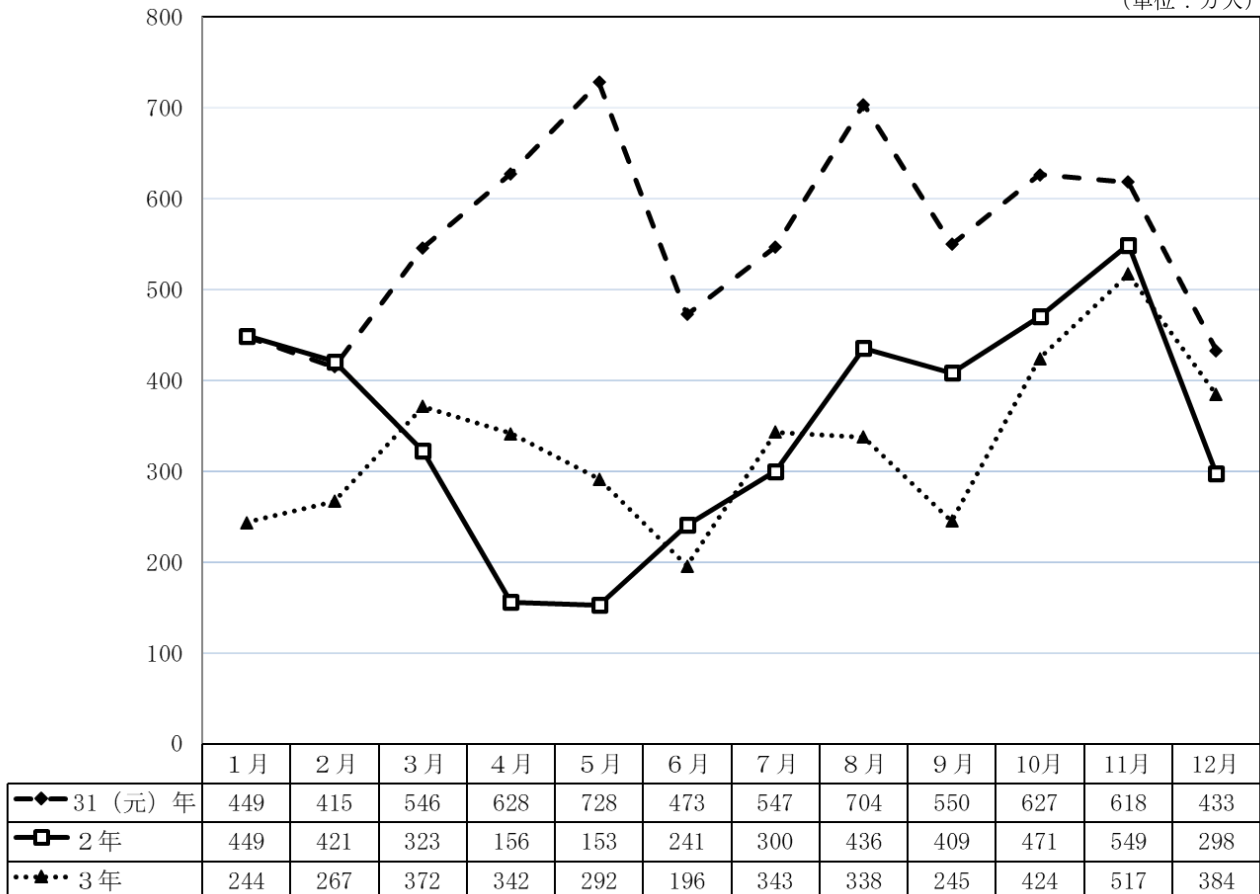
その後、7月は新規感染者数が減少、移動自粛要請の解除等の影響で前年から14.3%増加して343万人となったものの、8～9月上旬にかけては、感染者数の再拡大に伴う緊急事態宣言の発令等により、お盆及び夏季休暇シーズンにおける外出自粛機運が高まったことなどから、前年と比べ8月は22.4%減（338万人）、9月は40.0%減（245万人）となった。

10～11月については、新規感染者数が比較的落ち着いており、移動自粛要請の解除等の影響も受けて回復傾向となったが、国や県、各市町等による宿泊助成等の観光キャンペーンが実施された前年と比べると、10月は9.9%減（424万人）、11月は5.8%減（517万人）となった。

12月は、県や市町による観光キャンペーンや、年末年始期間も相まって前年から29.1%増の384万人となった。

図表1-22 月別観光客数の推移

(単位：万人)



2 外国人観光客数の状況

(1) 外国人観光客数の概況

令和3年の外国人観光客数は5.7万人で、前年と比べて34.5万人（▲85.9%）減少した。令和2年3月以降、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大を受けて入国制限が実施され、感染症拡大前の平成31（令和元）年と比較して270万人（▲97.9%）の減少となるなど、大幅に減少している。

図表2-1 外国人観光客数の比較

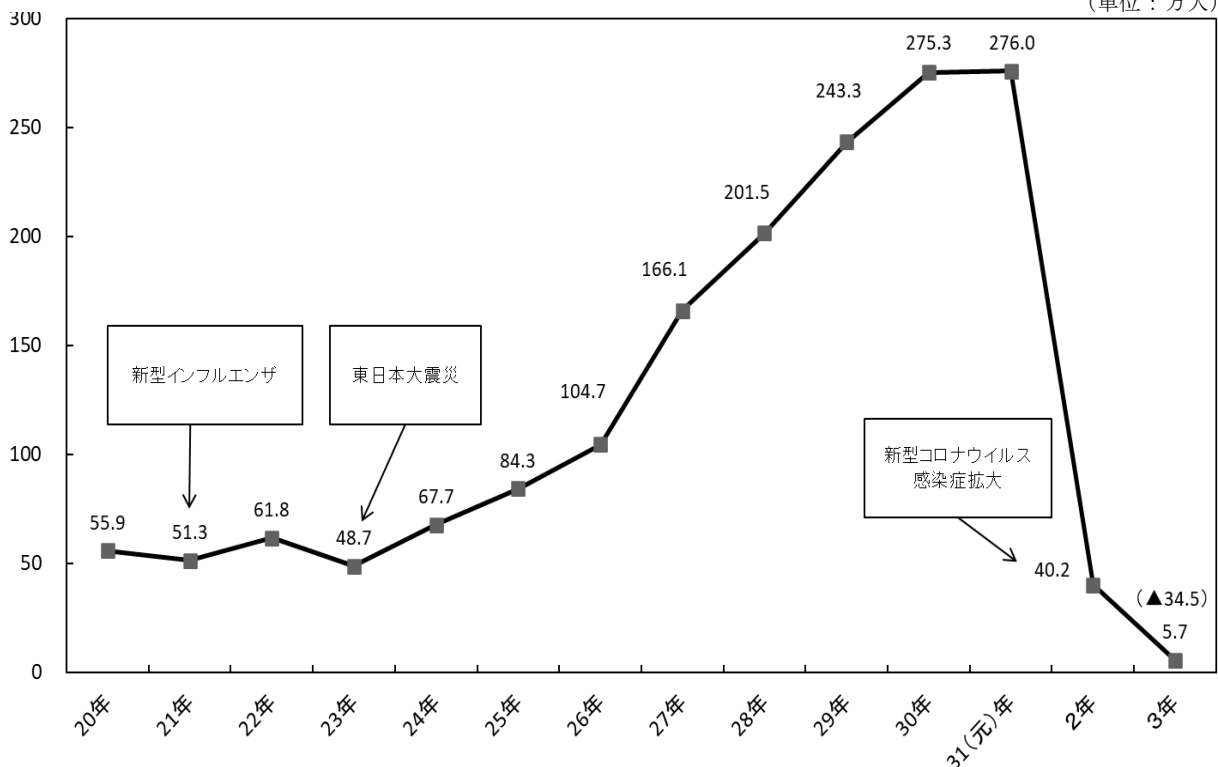
(単位：万人)

区分	平成31 (令和元)年	令和2年	令和3年	増減数 R3-R2	増減率 R3/R2	増減数 R3-R元(H31)	増減率 R3/R元(H31)
外国人 観光客数	276.0	40.2	5.7	▲34.5	▲85.9%	▲270.3	▲97.9%

なお、外国人観光客数については、平成31（令和元）年まで8年連続で過去最高を更新していたが、令和2年は9年ぶりに減少に転じ、以降は、新型インフルエンザが発生した平成21年の51.3万人や、東日本大震災が発生した48.7万人などを下回る結果となっている。

図表2-2 外国人観光客数の推移

(単位：万人)



(2) 市場別外国人観光客数の状況

市場別外国人観光客数をみると、令和3年は、アメリカが最も多く18.2千人（▲33.3千人）、次いで中国が6.2千人（▲28.8千人）となった。

各市場ともおおむね減少しているが、国内における労働者が比較的多いベトナムやフィリピンについては、大きく順位が上昇した。

図表2-3 市場別外国人観光客数の順位（上位10市場）

（単位：千人）

順位	市場名	平成31 (令和元)年	令和 2年	令和 3年	増減数 R3-R2	増減率 R3/R2	増減数 R3-R元(H31)	増減率 R3/R元(H31)	R2 順位
1位	アメリカ	369.3	51.5	18.2	▲33.3	▲64.6%	▲351	▲95.1%	2位
2位	中国	169.4	35.0	6.2	▲28.8	▲82.3%	▲163	▲96.3%	3位
3位	ベトナム	8.7	3.8	6.2	+2.4	+63.9%	▲3	▲29.1%	17位
4位	フィリピン	18.7	9.5	2.6	▲6.9	▲72.7%	▲16	▲86.1%	11位
5位	韓国	72.9	12.6	1.8	▲10.8	▲85.7%	▲71	▲97.5%	8位
6位	台湾	264.3	54.5	1.7	▲52.8	▲96.9%	▲263	▲99.4%	1位
7位	フランス	184.5	18.2	0.5	▲17.8	▲97.3%	▲184	▲99.7%	5位
8位	インドネシア	16.3	2.3	0.5	▲1.8	▲78.9%	▲16	▲97.1%	19位
9位	シンガポール	60.2	9.8	0.4	▲9.4	▲95.4%	▲60	▲99.3%	10位
10位	タイ	34.9	6.9	0.4	▲6.4	▲93.6%	▲35	▲98.7%	12位

地域別に外国人観光客の割合をみると、令和3年はアジア主要国からが全体の36.2%、欧米豪主要国からは36.8%、その他が27.1%であった。感染症拡大前の平成31（令和元）年は、欧米豪主要国が47.6%を占めていたが、入国制限等の影響により、各地域の差が少なくなっている。

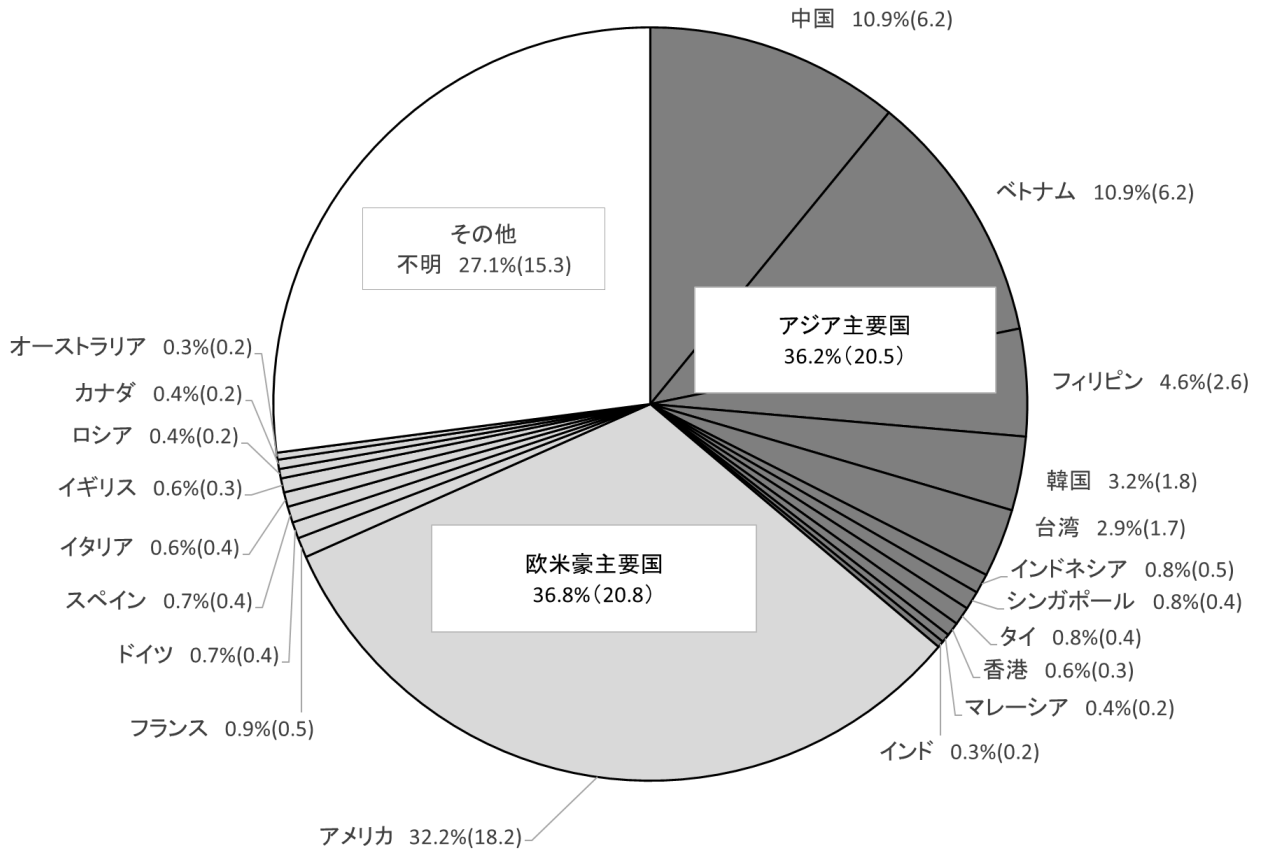
図表2-4 地域別外国人観光客数及び構成比の比較

（単位：千人）

区分	アジア主要国	欧米豪主要国	その他・国籍不明
31（元）年外国人観光客数 （構成比）	79.5 (28.8%)	131.5 (47.6%)	65.0 (23.6%)
2年外国人観光客数 （構成比）	15.8 (39.3%)	15.2 (37.9%)	9.2 (22.8%)
3年外国人観光客数 （構成比）	20.5 (36.2%)	20.8 (36.8%)	15.3 (27.1%)

図表 2-5 市場別外国人観光客数の割合

(単位：千人)



3 宿泊客数の状況

(1) 宿泊客数の概況

令和3年の宿泊客数は559万人泊で、前年と比べて54万人泊（▲8.8%）減少した。うち外国人は2万人泊で、前年から11万人泊（▲82.1%）減少した。総観光客数同様、新規感染者数の落ち着き及び県や市町等による宿泊助成等の観光キャンペーンの効果などにより、一時は回復傾向となった期間もあったが、年間を通じて外出自粛の動きが見られたことが大きく影響し、低調となっている。

なお、感染症拡大前の平成31（令和元）年と比較すると449万人泊減（▲44.6%）、うち外国人は128万人泊減（▲98.2%）となっており、引き続き厳しい状況である。

図表3-1 宿泊客数の比較

（単位：万人泊）

区分	平成31 (令和元)年	令和2年	令和3年	増減数 R3-R2	増減率 R3/R2	増減数 R3-R元(H31)	増減率 R3/R元(H31)
宿泊客数 (うち外国人)	1,009 (130)	613 (13)	559 (2)	▲54 (▲11)	▲8.8% (▲82.1%)	▲449 (▲128)	▲44.6% (▲98.2%)

(2) 地区別宿泊客数の状況

地区別にみると、宿泊客数が最も多い安芸地区①は、前年と比べて44万人泊少ない307万人泊（▲12.5%）となり、減少率も最も大きくなった。

なお、外国人宿泊客数については、入国制限等の影響で全地区とも大幅に減少しており、例年宿泊客数が際立って多かった安芸地区①においては、感染症拡大前の平成31（令和元）年より115万人泊少ない2万人泊（▲98.2%）となった。

図表3-2 地区別宿泊客数の比較

（単位：万人泊）

区分	平成31 (令和元)年	令和2年	令和3年	増減数 R3-R2	増減率 R3/R2	増減数 R3-R元(H31)	増減率 R3/R元(H31)
安芸地区 ①	665 (118)	351 (11)	307 (2)	▲44 (▲9)	▲12.5% (▲80.2%)	▲358 (▲115)	▲53.9% (▲98.2%)
安芸地区 ②	130 (4)	100 (1)	92 (0)	▲8 (▲1)	▲8.5% (▲91.8%)	▲38 (▲4)	▲29.3% (▲98.1%)
芸北地区	10 (0)	6 (0)	6 (0)	+0 (▲0)	+6.6% (▲14.5%)	▲3 (▲0)	▲35.5% (▲96.7%)
備後地区	171 (7)	135 (1)	132 (0)	▲3 (▲1)	▲2.4% (▲91.3%)	▲40 (▲7)	▲23.2% (▲98.3%)
備北地区	33 (0)	22 (0)	23 (0)	+1 (▲0)	+4.5% (▲23.1%)	▲10 (▲0)	▲30.6% (▲88.1%)

（注）カッコ内はうち外国人

また、宿泊客数の地区別構成比は、安芸地区①が 54.9%で最も高く、次いで備後地区の 23.5%となった。

平成 31（令和元）年から令和 2 年にかけては、安芸地区①の構成比が減少し、その他地区の構成比がおおむね増加するなど、平準化が進行していたが、令和 2 年から令和 3 年にかけては、安芸地区①がさらに減少するなど、その傾向が強まっている。安芸地区①については、平成 31（令和元）年と比較すると 11.1%減となっており、その他エリアについては全て増加した。

図表 3-3 宿泊客数の地区別構成比

（単位：万人泊）

区 分	平成 31 (令和元) 年 構成比	令和 2 年 構成比	令和 3 年 構成比	増減 R 3-R 2	増減 R 3-R 元(H31)
安芸地区①	65.9% (90.5%)	57.2% (81.4%)	54.9% (89.9%)	▲2.3% (+8.5%)	▲11.1% (▲0.7%)
安芸地区②	12.8% (3.4%)	16.3% (7.7%)	16.4% (3.5%)	+0.1% (▲4.2%)	+3.5% (+0.2%)
芸北地区	1.0% (0.3%)	1.0% (0.1%)	1.1% (0.5%)	+0.2% (+0.4%)	+0.2% (+0.2%)
備後地区	17.0% (5.7%)	22.0% (10.6%)	23.5% (5.1%)	+1.5% (▲5.5%)	+6.6% (▲0.5%)
備北地区	3.2% (0.2%)	3.6% (0.2%)	4.1% (1.0%)	+0.5% (+0.8%)	+0.8% (+0.8%)

（注）カッコ内は外国人

(3) 月別宿泊客数の状況

宿泊客数を月別で見ると、1～2月は感染症拡大前であった前年より大幅に少ない状況で推移していたが、新規感染者数の落ち着きが見られた3月は前年と比べて1.4%減となる51万人泊にまで回復した。

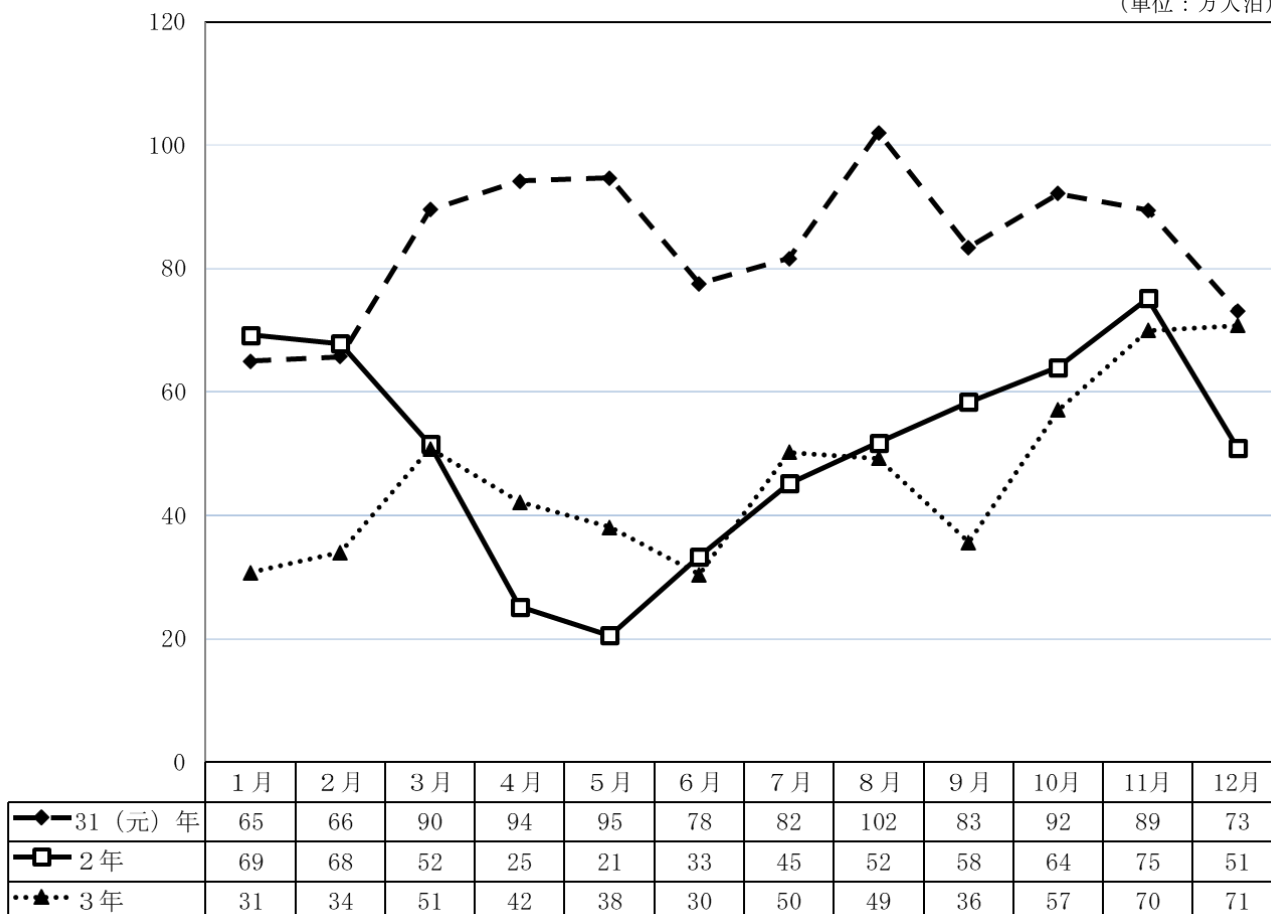
4月以降は、前年を上回って推移していたが、5～6月にかけては緊急事態宣言の発令により大きく落ち込み、6月については前年から8.8%減（30万人泊）となった。

7月は移動自粛要請が解除され、連休等も相まって前年から11.2%増（50万人泊）となったが、8月以降は新規感染者数の再拡大に伴い再び減少、9月については前年から38.9%減となる36万人泊となった。

一方、10月以降は増加傾向となった。12月については県や市町等による国や県、各市町等による宿泊助成等の観光キャンペーンの影響もあり、前年と比較して38.9%増（71万人泊）となったものの、感染症拡大前の平成31（令和元）年の73万人泊には届かず、年間を通して低調となった。

図表3-4 月別宿泊客数の推移

(単位：万人泊)

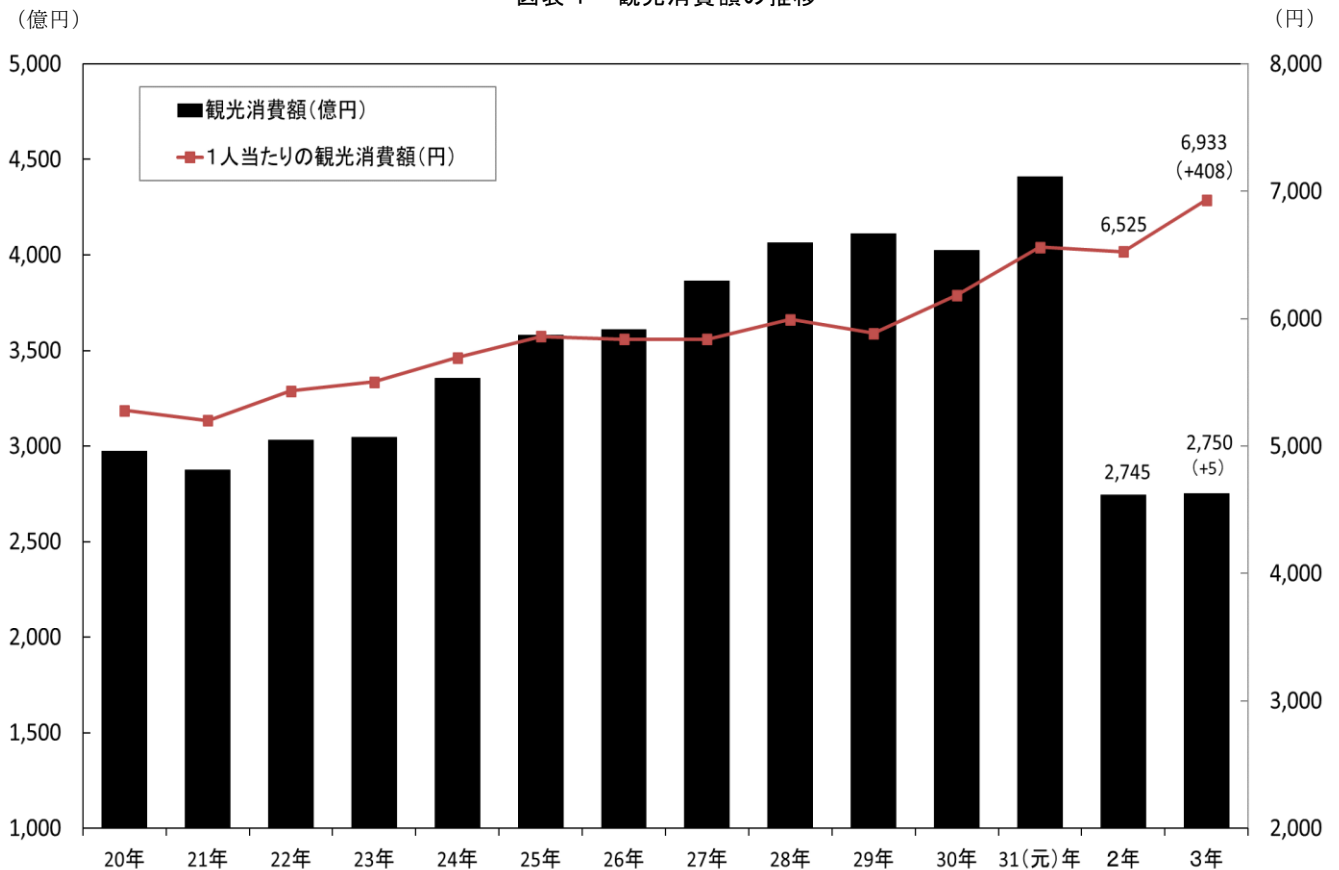


4 観光消費額の状況

令和3年に、観光客が本県において交通費、宿泊料、みやげ品代、飲食代、入場料などに消費した観光消費額の総額は2,750億円で、前年に比べて5億円（+0.2%）増加した。

また、観光消費額の総額を総観光客数で除した1人当たりの観光消費額^(注)は6,933円で、前年から408円（+6.3%）増加した。総観光客数や宿泊客数は減少したが、旅行自粛が続いたことに伴う旅行消費意欲の高まりにより、観光消費額単価は増加した。

図表4 観光消費額の推移



区 分	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年
観光消費額 (億円)	2,974	2,876	3,030	3,045	3,356	3,580	3,610
1人当たりの観光消費額 (円)	5,280	5,201	5,433	5,504	5,695	5,860	5,840

区 分	27年	28年	29年	30年	31(元)年	2年	3年
観光消費額 (億円)	3,865	4,062	4,112	4,023	4,410	2,745	2,750
1人当たりの観光消費額 (円)	5,840	5,994	5,884	6,185	6,562	6,525	6,933

(注) 1人当たりの観光消費額＝総観光消費額／総観光客数

Ⅲ 観光客数統計表